

此度も実験的に解き得べし

即ち各物資毎に前節§5に言へる如き装置を依りたる後例へば  $X_K^{(1)}$   $X_K^{(2)}$  ...  $X_K^{(n)}$  ... に相当する円管を並べ之と同形の円管を重ね後者は水端を夫々別々に同一円筒に連結して水を充たし両円筒の水高は壁と横止金とによりて  $U_K$  以上とならざる様になし置くものとす漸くしたる上前者の円管の壁の移動は其まゝ後者の壁の移動を起すやうに装置すれば之にて前者移動の総量が  $\pm U_K$  を超えざる如くなるべし

此装置にて各円筒の水高を夫々各物資の輸出入に等しからしめ得れば即ち解が可能にして各円管の壁の位置が相当する物資の相当する鉄道により輸送量を示すべし

#### 4. 経済の基礎

○價格の評準は本質的に言へば國家が保証する権柄なり

金一円を所有する者に対し之と引換に某事を許可すと云ふことを國家が保証するるとき其事項従て其円が價格の評準となるなり

○國家の保証せざる一事又は一物に対しては甲は5円にて得んことを願ひ乙は8円にて買はんとなす場合あり此時其物に対する主観價値が甲に於ては5円、乙に於ては8円なり 之は人々によりて異なる

○一物に対して甲、乙兩人が同じ主観價値をもつ場合にも其物に対する兩人の慾望の程度は勿論異なり得べし 慾望其者の程度を同一人又は異人間にて比較する心理的或は物理的方法なきに非ざるも、それは経済学の関知せざる所なり 経済学的には人間的感情の偉大と貧弱とは論せず要するに主観價値を直ちに慾望と比例するものと假定するなり

○一定条件の下に國家が買売と價格の自由を許す政治を、自由經濟と云ふ。此時買売は全く各人の主觀價值に應じて行はる最も自然的なる適法なり

○一定条件の下に國家が買売を制限し價格を一定に強制する政治を統制經濟と云ふ

○主觀價值は人爲的に變動せしめ得、物の量の乏しき程變動せしめ易く、而も加速的なり。遂に國家組織を破壊することあり、其主なる手段は買白、売惜みなり。戰時の如く生産力極下の非常時に當りて統制經濟の必要を生ずる所以なり。

○統制經濟の眼目とする所は物の利用を國家目的と合致するに在り。國家より見たる必要に應じて物を集散するに在り。個人の主觀價值に従へる自由賣買を禁ずるなり。

○統制經濟の主なる措置は國家目的に従へる物の集と散と即ち強制買上げと配給となり。其際各人の所有權價值を保護するため、適当に定められたる保証が即ち公定價格なり。故に統制經濟には三つの重要問題を生ず。買上の問題、配給の問題及び公定價格の問題之なり。勿論此三者は相関聯して同時に解決すべき問題なり。解決とは最善の方途を求むるの謂なり。最善とは

(1) 國家の要求を満たし 同時に

(2) 國民各自の主觀的希望に順應する

ことなり。(1)と(2)とは願望相反する場合常なり。双方協調して近似的に各の願望に成可く接近せる方法を講ずべきなり。

○非常戰時の如き場合は國家の要求を満たすことは不可欠の前提なり、依て先づ其最小限度の要求を必ず満たすこととなし其の條件の下に國民の希望に最も善く順應する方法

を求むべきなり

○國民の希望を表現するものは各自が各物に対しても主観價値なり。それに従へる自由売買を禁じて國家の要求のみを以て價格を強制せるものが公定價格なり。之をして國民の希望に近づけんとすれば宜しく國民各自の主観價値の平均を以て公定價格となすべきなり。

○其場合價格の基礎たる其者の主観價値が一率に下落すること即ち所謂 *inflation* を來すことは公定價格の暴騰即ち又其所有者の没落を意味するか然らざれば公定價格に従はざる犯罪即ち暗行爲の激増となるものにして最可怖すべき事なり。即ち其に対して國家が保証する權利は時局狀勢に應じて適当に変化し國民の主観價値を或可く不変に保持すること之經濟政策の根本義なり。

○然る上にて他の物品に附すべき公定價格の適性を如何にして判定すべきか之には色々の方法あるべきなるが、最も斬新なる数学的一法を示せば次の如し。

多数の独立生計者  $M_k$  等就て其所有する物品  $A_l$  等の量  $a_{kl}$  を調査したる後假りに  $A_l$  に対して一個  $x_l$  なる價格を附すれば  $M_k$  の所有物の總價格は

$$b_k = \sum a_{kl} x_l \quad (1)$$

なるべし。此  $b_k$  の分布函数を作れ。勿論今日迄の物品は自由売買の下に得られたるものとして、もし  $x_l$  が  $M_k$  の主観價値に十分近きときは  $b_k$  は  $M_k$  の主観價値の總額なり。人悉々其主観價値を大ならしめんとして物品を集積す依て其の分布函数は Gauss の標準函数となるべきなり。

故に  $x_l$  等を適当にとりて  $b_k$  の分布函数が標準函数に最

も近きやうに定めたるものを  $\bar{x}_e$  とすれば、 $\bar{x}_e$  が即ち  $A_e$  の公定價格として採用すべきものなり

但し  $A_e$  等の中の一つは其着にして例へば  $A_1$  をとれば  $x_1 = 1$  は最初より定めたるものなり

○公定價格を決定したる以上之を以て買上げ行ふ際其買上量は各地方に依りて差等を設け配給も亦其品種を地域毎に違へるが上策なり即ち同じ物品ならば價格を低く評價する地方より買上げ高く評價する地方へ配給するなり 地域別の主観價値(平均)を知るには其地域内にて前条の方法を用ふればよし

○此他買上配給に當りては輸送を容易ならしめる如く考慮する必要あり

○尚主観價値は政治的に変動せしめ得るものなり故に適當なる政治によりて國民の主観價値を國家の願望と等しきやうに示導する事は經濟政策の最要點なり

## 5. 人生教學

○教學の本領は量的判断にあり 判断は処世の根本なり 判断の正格は量的計測の精密による 教學が人生の根本知識をなす所以なり

○處世上の判断とは論ずる所優劣の判断なり

○物の状態は其れのもつ各因子即ち原素的なる諸量所謂一般座標によりて定まる甲乙二物が夫々座標  $(x_1, x_2, \dots, x_m)$   $(y_1, y_2, \dots, y_m)$  にて定まるとき、甲乙の優劣を定むる一般の法則は或函数

$$f(x_1, \dots, x_m; y_1, \dots, y_m)$$

が正ならば甲優り負ならば乙優ると云ふ如き形にて与へら